

第34期 (2014年6月期)

第2四半期連結業績説明資料

2014年 2月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

T E L 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki-hd.co.jp/>

e-mail : ir@donki.co.jp



2014年6月期 2Q 決算概況

- ✓決算業績概況
- ✓事業別業績概況
- ✓主な資産、負債、純資産の状況
- ✓セグメント情報
- ✓キャッシュフロー、設備投資の状況
- ✓決算レビュー

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓株式の状況
- ✓月次販売の状況
- ✓出店状況&ハイライト情報
- ✓組織再編の状況
- ✓店舗業態の状況
- ✓PB商品の状況

2014年6月期 業績予想

- ・本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。
- ・本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「DQHD」、ドン・キホーテ店舗は「DQ」、アクリーティブ(8423)は「ACR」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」と表示している箇所があります。

特集 決算速報

A○B新聞号外 決算速報 2014年(平成26年)2月5日(水曜日)

ドンキホーテHD、増収増益決算

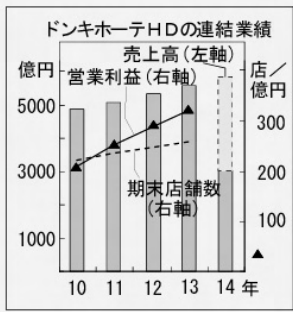
A○B新聞
号外
日黒区青葉台2*19+10
1Q89
established

顧客志向の戦略を駆使し7~12月期

ドンキホーテホールディングスは過去最高実績を更新する増収増益決算を5日に発表しました。2013年7月~12月期連結決算は、売上高が前年同期比4%増の3033億円、営業利益が9%増の205億円、経常利益が10%増の211億円、純利益は10%増の130億円となった。小売業界におけるサバイバル競争が加速する可能性が高い消費税増税を見据えた同社の対策と戦略は明快だ。コモディティ需要の獲得を主眼にMEGA業態の開発と進化にますます磨きがかかり、商品編集力と提案力のあわせ技で収益力も向上させた。

リテール事業が牽引

ドンキホーテHDは、当2Qも堅実な事業展開を進めている。セールの商品力強化策と併せてファミリー向け業態や首都圏一等地戦略を具現化する店舗開発を促進し、いずれも将来を睨んでのシェア増大及び収益力拡大につながる成果を出現させた。



域密着戦略が功を奏して、顧客リピート率が高くなり、大幅増益を達成している。セグメント別では、リテール事業の売上高は4%増の2923億円、セグメント利益は15%増の171億円と絶対調だ。天候不順や一部の高単価商品が不調といったマイナス要因は、顧客心理を反映した商品編集能力でカバーし、一部で継続している価格競争は、ハイ&ロー作戦の徹底でテナント賃貸事業の売上高は83億円、セグメント利益は26億円となった。

グループ全体の店舗数は、M&Aによる増加を含めて、前期比29店増の278店となった。

事業再編で成長軌道

2段階に亘って実施される消費税増税は、小売業界における主役交替を加速させるトリガーとなりそうだ。特にコモディティ需要の開拓合戦が、今後の主導権獲得に有効であることは論をまたないが、その一方で単なる安売り競争は企業体力を消耗させるリスクも高い。同社は純粋持株会社体制の移行に併せて、グループ事業の再編を実施した。各事業会社が持つ独自のオペレーションやノウハウとアミューズメント性は、大競争時代に向けた大きなアドバンテージと考えたい。

5期連続の上方修正

通期の業績予想については、当期も上方修正で市場の期待に応えた。売上高は前期比4%増の5963億円と従来予想を据え置いたが、営業利益は5%増の342億円(同335億円)、経常利益は4%増の348億円(同340億円)、純利益は3%増の218億円(同215億円)にそれぞれ修正した。

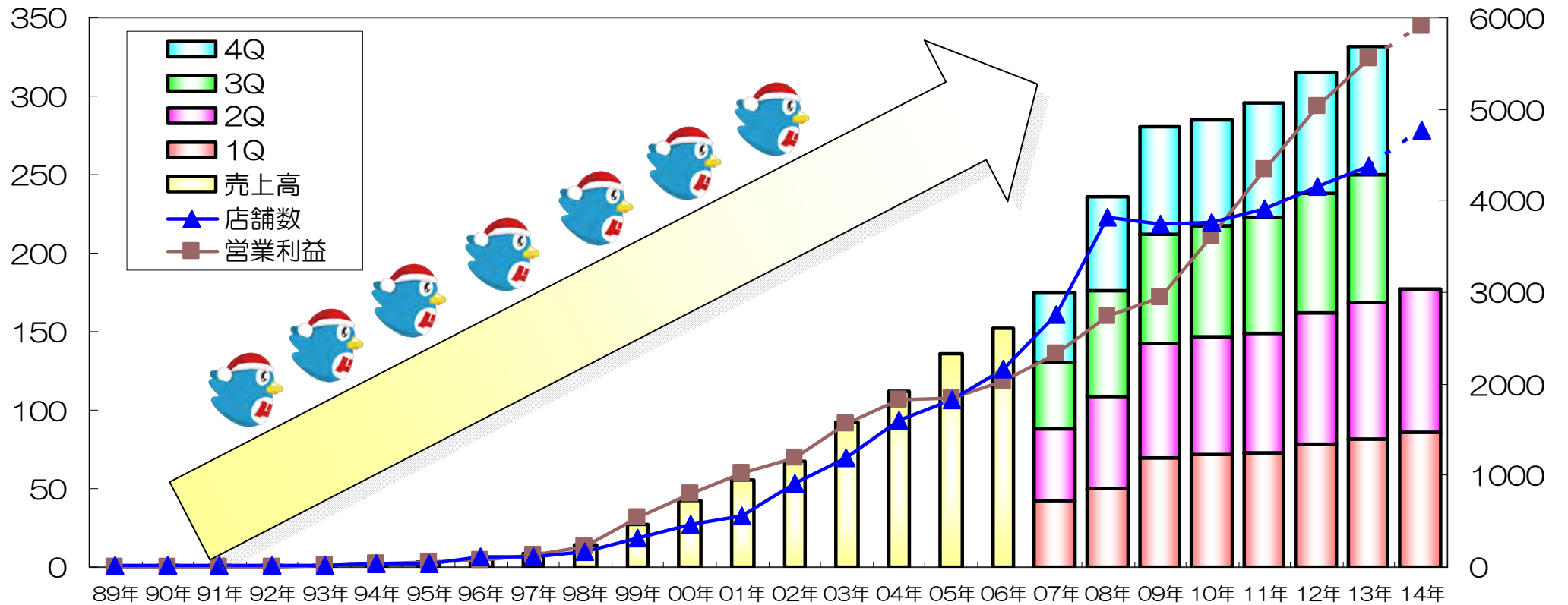
消費増税後の販売動向については不透明感が拭えないが、価格競争力に絶対の自信を持つ同社は、研ぎ澄まされたディスプレイメント体制を発揮して、25期連続増収増益決算を引き寄せることになるだろう。
【MT記】

年間業績推移

ドンキホーテ HLDGS

店舗数
営業利益

(金額単位：億円)
売上高



(注) 当社グループは、DQ1号店を創業開店（1989年3月）して迎えた最初の決算期（1989年6月期）から、直近期（2013年6月期）まで、24期連続増収営業増益を継続しております。

1. 2Q累計連結業績概況

消費大増税時代前夜！新規の需要喚起と顧客拡大に向けた準備と対策は粛々と進行！！

- ▶ 地方都市における「New MEGA店」の店舗力を向上させて、ファミリー需要を獲得。業態精度の向上と収益改善を着実に進める一方で、当期は首都圏一等地戦略を展開。ドミナントエリア内の高密度出店に加えて、インバウンド需要を積極的に取り込むなど、2020年に連なる果実獲得のための先手を打ち続ける。
- ▶ ワクワク・ドキドキする店舗に息吹を持った商品力を強化するため、「最適なセールスマックスの追求」による「売上総利益の増大」策は当2Qも健在。在庫効率の改善（一部の高単価商品の縮小及び滞留在庫の積極処分など）と並行させた施策は、大いなる成果が出現。売上総利益については1Qから積み重ねた貯金がものをいい、0.4%増と利益拡大に寄与。
- ▶ 純粹持株会社体制の移行に併せて、企業価値を最大化するため、グループ事業の再編を実施。各事業会社の責任と権限体制の明確化を図るとともに、機動的かつ柔軟な経営判断を可能にする運営体制の構築で、「顧客最優先主義」の追求でさらなる成長性を発揮。
- ▶ これらのことから、2Q累計連結業績は、売上高3,033億円（前期比4.7%増）、営業利益205億円（同9.8%増）、経常利益211億円（同10.8%増）、当期純利益130億円（同10.6%増）と増収増益を達成し、2Q累計期間最高益を更新。

2. 業績見通し

通期業績予想を上方修正！

- ▶ 2Q累計連結業績の進捗状況を踏まえて通期の業績見通しを修正。売上高は前期比4.9%増の5,963億円と従来予想を据え置くが、営業利益は5.7%増の342億円、経常利益は4.8%増の348億円、当期純利益は3.1%増の218億円を予想。消費税増税に伴って激変する商環境を織り込んだ上で25期連続増収増益を達成し、最高益更新を狙う。

2Q累計業績サマリー

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2013年7月1日～2013年12月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当2Q累計実績				公表予想 ※1		前2Q実績	
	金額	百分比	予想比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	303,322	100.0%	99.8%	104.7%	304,000	100.0%	289,644	100.0%
売上総利益	81,075	26.7%	100.8%	106.4%	80,400	26.4%	76,186	26.3%
販管費	60,571	20.0%	99.5%	105.3%	60,900	20.0%	57,513	19.9%
営業利益	20,504	6.7%	105.1%	109.8%	19,500	6.4%	18,673	6.4%
経常利益	21,135	7.0%	106.7%	110.8%	19,800	6.5%	19,075	6.6%
当期純利益	13,024	4.3%	105.9%	110.6%	12,300	4.0%	11,777	4.1%
1株利益	166.94円		105.9%	109.4%	157.66円		152.64円	

個別実績	当2Q累計実績 ※2				(参考予想) ※3		前2Q実績	
	金額	百分比	予想比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	168,045	100.0%	79.5%	83.3%	211,500	100.0%	201,796	100.0%
売上総利益	44,866	26.7%	80.4%	85.4%	55,800	26.4%	52,508	26.0%
販管費	34,638	20.6%	83.5%	89.3%	41,500	19.6%	38,806	19.2%
営業利益	10,228	6.1%	71.5%	74.6%	14,300	6.8%	13,702	6.8%
経常利益	13,277	7.9%	79.0%	95.3%	16,800	7.9%	13,930	6.9%

※1. 業績予想は、2013年11月5日に8月16日に公表した当初予想（営業利益190億円、経常利益192億円、純利益120億円）を上方修正したものであります。

※2. 個別実績については、当2Q累計期間から純粋持株会社「ドンキホーテホールディングス」が対象会社になっております。

※3. 個別業績予想については、当社は公式開示しておりませんが、連結業績予想の前提となる（純粋持株会社体制に伴う会社分割前の）予想を参考予想として記載しております。

2Q累計連結業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶ 連結売上高：3,033億円（前期比4.7%増）

既存店における収益力拡大と交差主義比率の改善を企図した商品の改廃を大胆に進めながら、消費税増税後のシェア拡大に向けて、勝つための要因確保を粛々と進める。

消費構造の変化により一部の高単価商品の不振が目立ち、また取扱い部門縮小の影響などもあって、トップラインは伸び悩むが、新商品の発掘や提案力が店舗を活性化させた。

なお、当2Qより「Marukai」が稼働し、連結される予定が、決算期をDQ USAと同様の3月期に変更したため、同社実績は3Qから連結されることになり、Qズレ発生（Marukai売上予算35億円）。

▶ 当2Q末店舗数：278店（前2Q末249店、前期末255店）

新規出店13店（DQ7店、MEGA5店、ピカソ1店：うちソリューション出店2店）、M&Aによる増加（マルカイ11店）、業態転換1店、経営主体変更1店、閉鎖1店。

▶ 連結売上総利益：811億円（前期比6.4%増）、同利益率：26.7%（同0.4pt改善）

消費税増税を見据えた商品構成の見直しと改廃を進めて在庫水準の適正化を追求。

一部の高単価商品在庫を絞り込み、さらにスロームーブ商品の処分を積極的に進める一方で、プライベートブランド商品などを中心とした採算性の良い商品の販売ミックスに注力。同利益率は0.4pt改善。

▶ 連結販管費：606億円（同5.3%増）、販管费率：20.0%（同0.1pt低下）

首都圏一等地戦略を主要テーマに13店を新規出店したことによるイニシャルコストが発生。さらに事業再編に伴う支払手数料・租税公課など、一過性費用（約7.6億円）の発生があったが、概ね予算（609億円）内に収まる。

かねてより懸案の光熱費は、LED投資の効果が表れて3.1%増に留める。

▶ 営業外収支尻：6億円のプラス

受取利息2.1億円、負ののれん償却2.5億円/支払利息5.8億円など。

▶ 特別損益収支尻：2億円のマイナス

固定資産売却益2.1億円/固定資産除却損2.1億円、店舗閉鎖損失2.0億円など。

▶ これらのことから、営業利益205億円（同9.8%増）、経常利益211億円（同10.8%増）、当期純利益は130億円（10.6%増）といずれも大幅増益を達成し、2Q最高益を更新！

2Q累計連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	303,322	100.0%	289,644	100.0%	104.7%
売上総利益	81,075	26.7%	76,186	26.3%	106.4%
販売管費	60,571	20.0%	57,513	19.9%	105.3%
給与手当	20,834	6.9%	19,660	6.8%	106.0%
地代家賃	8,640	2.8%	8,591	3.0%	100.6%
支払手数料	7,545	2.5%	6,688	2.3%	112.8%
減価償却費	4,551	1.5%	4,793	1.7%	95.0%
その他	19,001	6.3%	17,781	6.1%	106.9%
営業利益	20,504	6.7%	18,673	6.4%	109.8%
経常利益	21,135	7.0%	19,075	6.6%	110.8%
当期純利益	13,024	4.3%	11,777	4.1%	110.6%
1株当たり純利益	166.94円		152.64円		109.4%

2Q累計事業別業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶リテール事業2,923億円（前期比4.8%増）

*「家電製品」281億円（同3.3%減）

薄型テレビや携帯電話取扱店の縮小及びゲーム関連商品の主役不在による反動減で、トップラインは苦戦。一方で稼ぎ頭のスマートフォンアクセサリは話題の新機種発売が需要を促進。お客さまニーズの創造と収益性改善の両方を実現する商品構成に成功。

*「日用雑貨品」689億円（同7.4%増）

収納家具・ラグ類などのインテリア用品が伸び悩んだ反面、ステンレスボトルなどの台所用品やボディーケア用品などの日用消耗品が好調に推移。ハロウィン・クリスマス関連の装飾小物など季節イベント需要先取り作戦が成功。

*「食品」857億円（同6.6%増）

小麦や食用油など相場高のマイナス影響を、菓子類・ドリンク類の伸長で充分カバー。MEGA店は生鮮食品の強化策が実りはじめて、お客さま数増・売上増に貢献。

*「時計・ファッション用品」693億円（同2.2%増）

相場高の影響を受け輸入ブランド商品が軟調となったものの、舶来時計・宝飾品の人気は高い。バッグ・キャリケースやシューズのお客さま支持率が高まった他、機能性下着などの実用衣料が貢献。

*「スポーツ・レジャー用品」187億円（同4.9%増）

バーベキュー用品など夏のアウトドア関連用品やウィンタースポーツ関連商品が好調。

*「DIY用品」90億円（同4.0%増）

プロユース向けのDIY商品に係る「単品強化」と「きめこまやかな商品提案」をキーワードに、品揃え強化に取り組んだ営業施策が奏効。

*「海外（ハワイ）」80億円（同27.2%増）

生鮮・惣菜・グロッサリーは地元客ニーズを、菓子類・雑貨品は観光客ニーズを捉えた商品構成と提案力が奏効。既存3店はUSドルベースで1.8%増。（ご参考：当2Q 1USD=99.5円、前2Q=79.1円）

▶テナント賃貸事業83億円（同2.4%増）

一部のテナント事業者の縮小や撤退が一巡し、商業施設事業は上昇傾向。

2Q累計事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	当2Q (累計)		前2Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	292,323	96.4%	278,988	96.3%	104.8%
家電製品	28,095	9.3%	29,043	10.0%	96.7%
日用雑貨品	68,861	22.7%	64,117	22.1%	107.4%
食品	85,721	28.3%	80,440	27.8%	106.6%
時計・ファッション用品	69,281	22.8%	67,825	23.4%	102.2%
スポーツ・レジャー用品	18,666	6.1%	17,790	6.1%	104.9%
DIY用品	9,040	3.0%	8,694	3.0%	104.0%
海外	8,032	2.7%	6,314	2.2%	127.2%
その他商品	4,626	1.5%	4,765	1.7%	97.1%
テナント賃貸事業	8,348	2.8%	8,154	2.8%	102.4%
その他事業	2,651	0.8%	2,502	0.9%	106.0%
合計	303,322	100.0%	289,644	100.0%	104.7%

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

主な資産の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	13年12月	13年6月	増減額
流動資産	177,638	143,391	34,247
現預金	55,396	31,698	23,698
商品	92,781	85,997	6,784
固定資産	263,124	243,231	19,893
建物等	74,312	66,097	8,215
土地	114,523	107,905	6,618
敷金保証金	31,616	31,762	▲146
資産合計	440,762	386,622	54,140

主な資産の状況

12月末は小売業界の繁忙期のため、6月末に比して資産のうち、現預金・商品などは増加する傾向があります。

▶ **総資産：4,408億円**（前期末比541億円増）

主な増加要因は、現預金237億円増、受取手形及び売掛金19億円増、棚卸資産68億円増及び出店に伴う有形固定資産159億円増、無形固定資産31億円増など。

▶ **現預金：554億円**（同237億円増）

既存事業については、資金効率を高める運営に注力する一方で、グループ事業再編と資産流動化の実施に伴い、ニューマナーの調達を実行したため。

▶ **商品：928億円**

（同68億円増、前2Q末比35億円、3.9%増）
消費税増税を見据えた交差主義比率の改善を意識した営業施策を推進し、商品の改廃を積極的に進めながら、滞留在庫の販売促進や処分を強化。

MEGA店を中心に大型店展開が進んだ過去1年間における新規出店20店及びMarukai11店を含めた売場面積63,060㎡増（8.8%増）に対して、商品在庫は3.9%増に抑制する。

▶ **固定資産：2,631億円**（同199億円増）

当期中の新規出店13店及び次期以降の出店物件の獲得により、有形固定資産159億円増、無形固定資産31億円増など。

主な負債&純資産の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	13年12月	13年6月	増減額
流動負債	145,072	121,170	23,902
買掛金	62,826	48,036	14,790
短期負債 ^{※1}	45,305	46,492	▲1,187
固定負債	112,745	95,274	17,471
社債	47,150	48,640	▲1,490
長期借入金	24,061	31,374	▲7,313
債権流動化に伴う 長期支払債務	26,372	—	26,372
負債合計	257,817	216,444	41,373
純資産合計	182,945	170,178	12,767
負債・純資産合計	440,762	386,622	54,140

主な負債・純資産の状況

12月末は小売業界の繁忙期のため、6月末に比して負債のうち、買掛金などは増加する傾向があります。

- ▶負債合計：2,578億円（同414億円増）
主な増減要因は、買掛金148億円増、債権流動化に伴う支払債務307億円増などの一方で、有利子負債100億円減（短期性負債12億円減、長期性負債88億円減）など。
- ▶有利子負債：1,165億円
（同100億円減、依存率26.4%、うちACR157億円）
- ▶純負債：611億円（同337億円減）
- ▶債権流動化に伴う支払債務：307億円
はABL（Asset backed loan）により新規に資金調達したものの。
- ▶D/Eレシオ：0.63倍
（前2Q比0.24pt.改善、
参考：Net D/Eレシオ：0.33倍）
- ▶純資産：1,829億円
（前期末比128億円増、自己資本比率40.6%）

※1 短期負債＝短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

2Q累計セグメント情報 (事業別)

ドン・キホーテ HLDGS

セグメント別利益は「リテール事業」は15.4%増の171億円、
「テナント賃貸事業」は26億円、「その他の事業」は12億円！

当2Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	292,323	8,348	2,651	303,322	—	303,322
内部取引等	3	2,043	1,409	3,455	▲3,455	—
計	292,326	10,391	4,060	306,777	▲3,455	303,322
セグメント利益	17,055	2,572	1,247	20,874	▲370	20,504

前2Qセグメント概要

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業	計	調整	連結
外部売上高	278,988	8,154	2,502	289,644	—	289,644
内部取引等	2	1,338	1,859	3,199	▲3,199	—
計	278,990	9,492	4,361	292,843	▲3,199	289,644
セグメント利益	14,779	2,792	1,065	18,636	37	18,673

※「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

2Q累計セグメント情報 (法人別)

ドン・キホーテ HLDGS

「ドン・キホーテ」「長崎屋」「ドイツ」「DQ USA」は、いずれも収益力を拡大。
 純粋持株会社体制移行後も、事業特性を発揮し「顧客最優先主義」を追求！

当2Q法人別セグメント概要

(単位：百万円)

	ドンキホーテHD ドン・キホーテ ^{※1}	ドイツ	長崎屋 ^{※2}	DQ USA	その他	消去/全社	連結
売上高	211,643	10,385	71,287	8,186	11,778	▲9,957	303,322
営業利益	14,139	634	1,771	425	2,131	1,404	20,504
総資産	363,526	22,651	66,934	10,388	150,967	▲173,704	440,762
純資産	153,187	18,112	36,526	9,419	36,932	▲71,231	182,945

為替
レートの
PL/1USD = ¥99.5
BS/1USD = ¥99.0

前2Q法人別セグメント概要

(単位：百万円)

	ドン・キホーテ	ドイツ	長崎屋 ^{※2}	DQ USA	その他	消去/全社	連結
売上高	201,796	10,124	69,553	6,434	12,503	▲10,766	289,644
営業利益	13,702	268	1,454	331	1,527	1,391	18,673
総資産	324,448	23,849	61,921	9,538	92,479	▲117,761	394,474
純資産	133,154	17,707	34,012	8,803	23,191	▲61,193	155,674

為替
レートの
PL/1USD = ¥79.1
BS/1USD = ¥77.6

※1. 純粋持株会社体制の移行に伴い、ドン・キホーテはドンキホーテHD及びドン・キホーテに会社分割して
 いるため、両社を単純合算して記載しております。

※2. 長崎屋は、リテール（小売）事業のみの業績であります。

Don Quijote Holdings Co., Ltd. 2Q results of FY2014.

キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

1.キャッシュフローの状況	当2Q	前2Q	増減額
期首残高	36,132	29,973	6,159
営業活動CF	22,624	28,325	▲5,701
投資活動CF	▲16,664	▲15,486	▲1,178
財務活動CF	17,636	653	16,983
期中増減等	23,904	13,392	10,512
期末残高	60,036	43,365	16,671

キャッシュフロー

<営業CF>

▶税金等調整前純利益209億円、減価償却費52億円及び仕入債務の増加142億円などが増加要因となる一方で、たな卸資産の増加55億円及び税金支払額67億円などが減少要因となったことから、226億円がキャッシュイン

<投資CF>

▶出店に伴う有形固定資産の取得130億円、同無形固定資産の取得17億円、連結範囲の変更を伴う子会社株式取得25億円などにより、167億円がキャッシュアウト

<財務CF>

▶債権流動化による新規調達309億円が収入となる一方で、事業資金の効率化を追求して借入金86億円純減及び社債27億円純減、さらに配当金支払18億円などの結果、176億円がキャッシュイン

2.設備投資の状況

設備投資額	15,497	21,131	▲5,634
キャッシュフロー [※]	16,252	15,117	1,135
差引	755	▲6,014	6,769

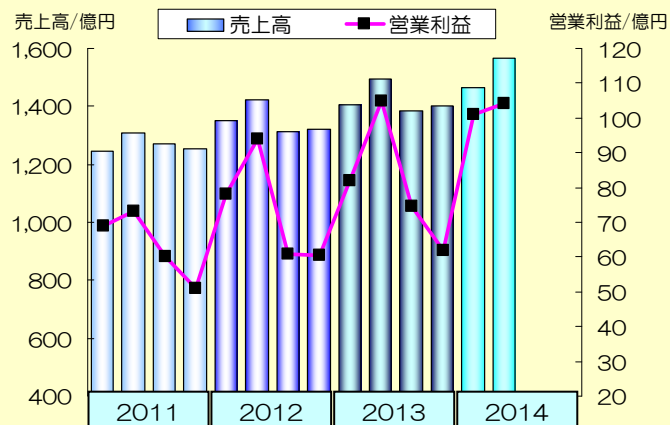
設備投資

▶設備投資は155億円（DQHD138億円、長崎屋11億円、日本商業施設3億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は130億円）、キャッシュフローは163億円獲得したため、フリーキャッシュフローは8億円のプラス。

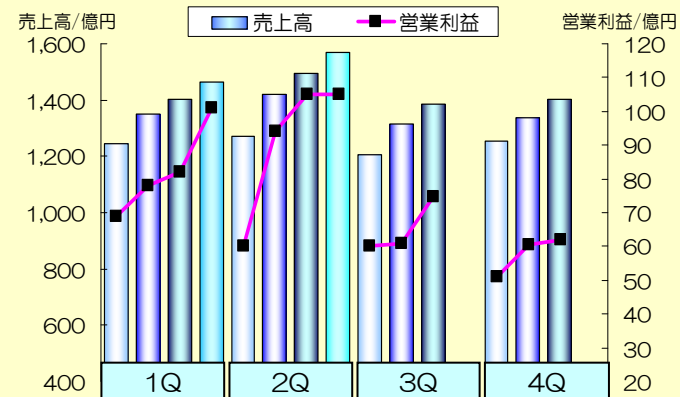
※キャッシュフロー＝純利益＋減価償却費＋特別損失－配当金

四半期業績推移

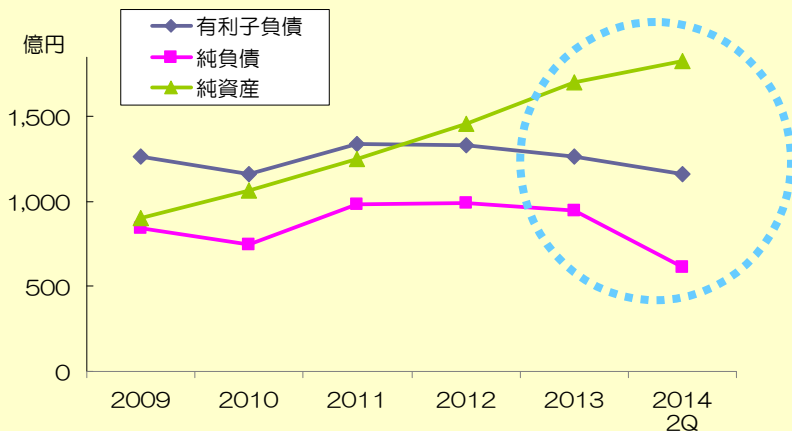
四半期業績推移の状況 (A)



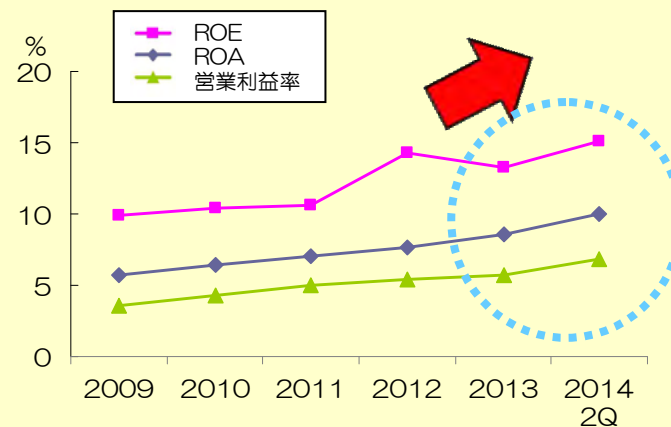
四半期業績推移の状況 (B)



純資産・純負債・有利子負債の状況



営業利益率・ROA・ROEの状況

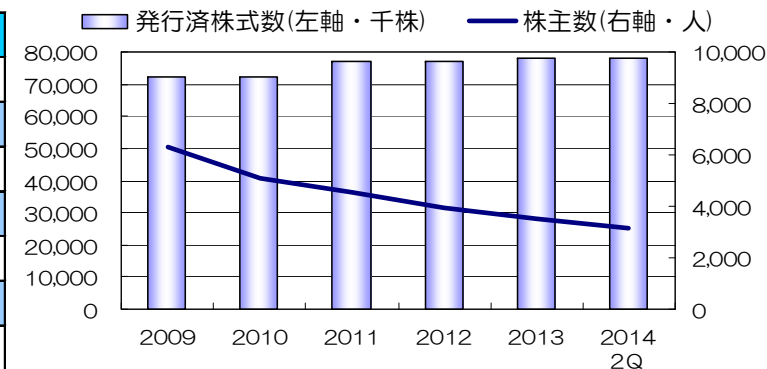


株式の状況

所有者別構成比推移

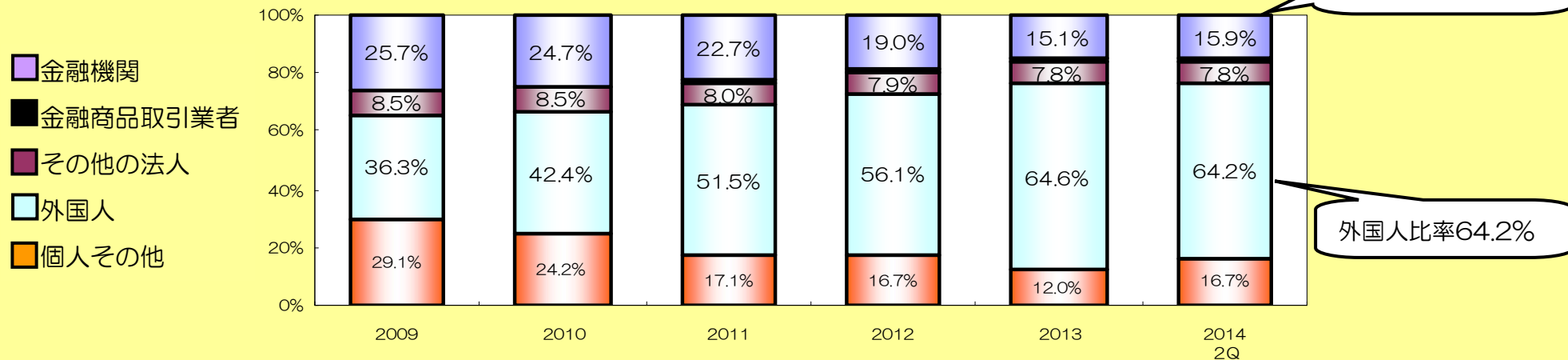
(単位：千株)

		前々期末		前期末		当2Q	
期末株主数		3,964人		3,518人		3,123人	
発行済株式数合計		77,135	100.0%	77,864	100.0%	78,193	100.0%
所有者別	金融機関	14,606	19.0%	11,735	15.1%	12,434	15.9%
	金融商品取引業者	249	0.3%	391	0.5%	551	0.7%
	その他の法人	6,084	7.9%	6,070	7.8%	6,061	7.8%
	外国人	43,298	56.1%	50,270	64.6%	50,205	64.2%
	個人その他	12,898	16.7%	9,398	12.0%	8,942	11.4%



- (注) 1. 当2Q末株主数は、3,123人(前期末比395人減、前2Q末比451人減)となっております。
 2. 外国人持株比率は64.2%となっております。
 3. 自己株式(1,244株)は、個人その他に含んでおります。

所有者別持株構成比推移



株価の状況 & 時価総額ランキング

ドンキホーテ HLDGS

株価の推移



小売業時価総額ランキング

(単位：億円)

順位	名称	時価総額 ※
1	ファーストリテイリング	40,425
2	セブン&アイ・ホールディングス	36,362
3	イオン	10,910
4	ローソン	7,502
5	ニトリホールディングス	5,705
6	三越伊勢丹ホールディングス	5,188
7	ドンキホーテホールディングス	4,957
8	ファミリーマート	4,533
9	J.フロント リテイリング	3,705
10	ヤマダ電機	3,421
11	しまむら	3,359
12	エービーシー・マート	3,351
13	高島屋	3,186
14	丸井グループ	3,101
15	サンドラッグ	2,905
16	良品計画	2,659
17	スギホールディングス	2,600
18	コスモス薬品	2,576
19	スタートトゥデイ	2,517
20	イズミ	2,464

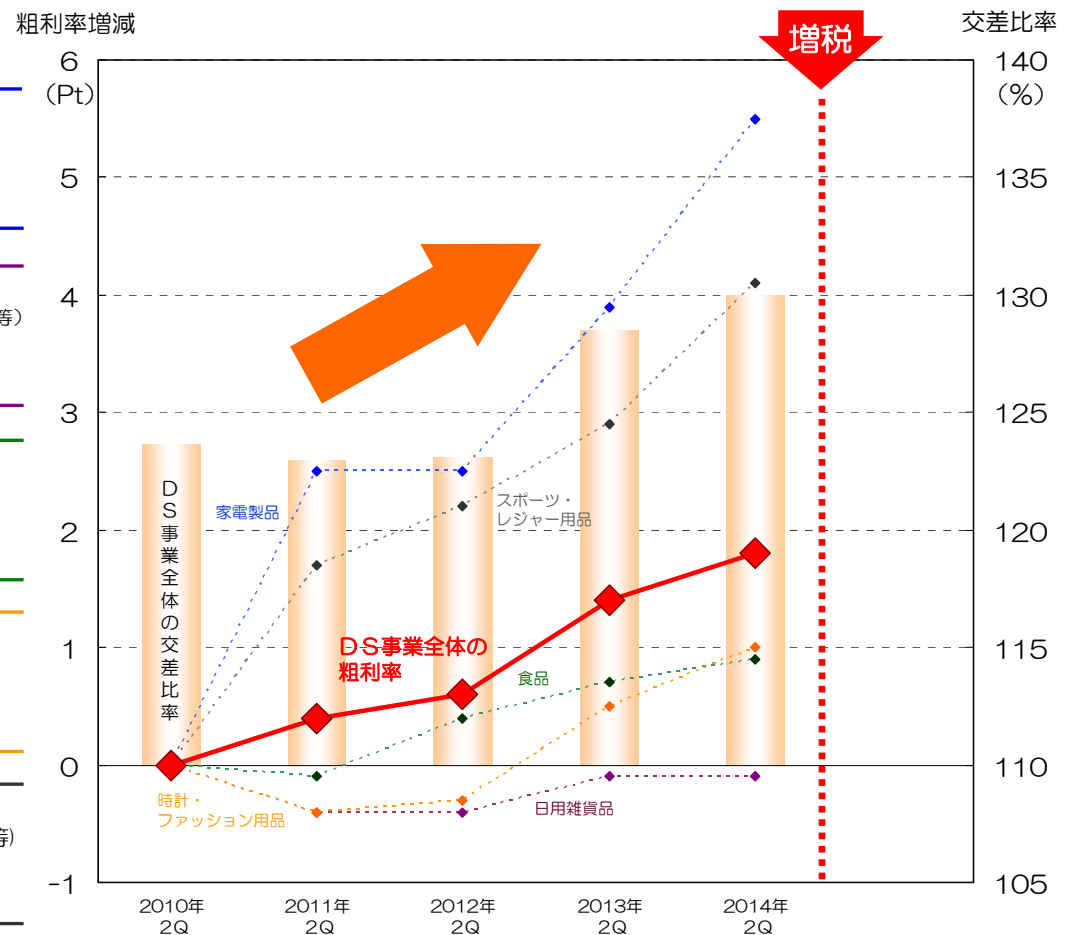
2Q累計レビュー：商品部門分析

- ✓ 商品ミックスの改善 (ex. 高単価・低粗利・低回転 ⇒ 低単価・高粗利・高回転)
- ✓ 付加価値と利益率の高いプライベートブランド商品の拡充 (P.30ご参照)
- ✓ プライス及びインベントリーコントロール (値入及び在庫効率改善) の推進

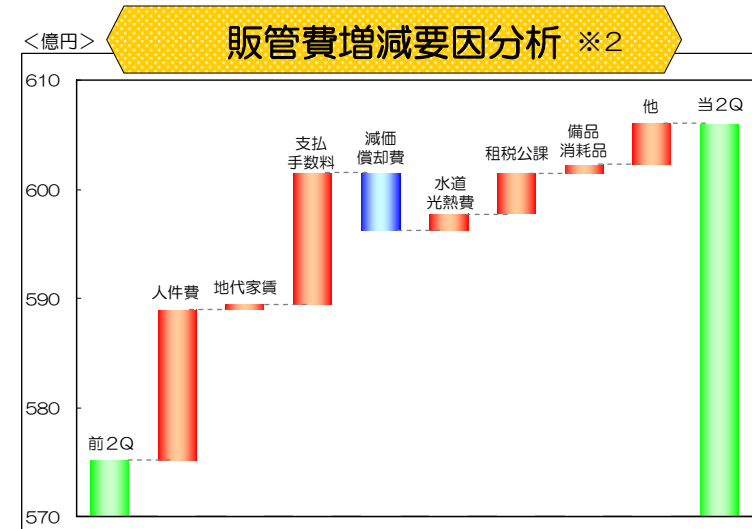
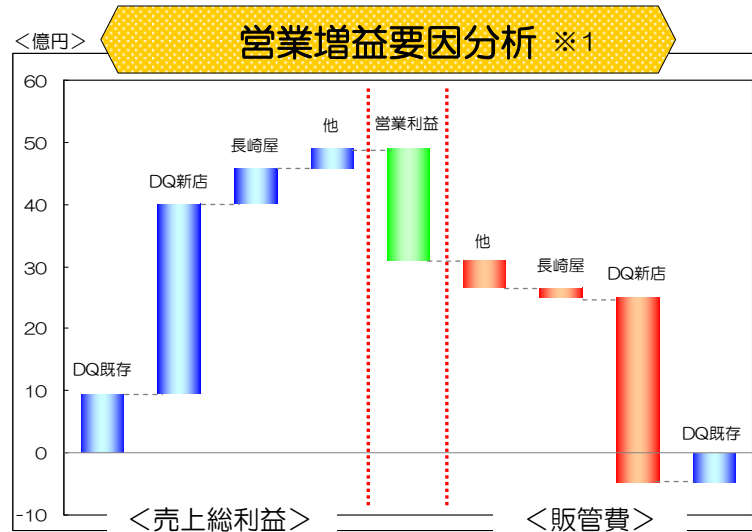
◆ 主力商品の変遷

	従来	現在
家電製品	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビ ● PC ● ゲーム ● CD・DVD 	<ul style="list-style-type: none"> ● スマホアクセサリ ● POSAカード ● 管球 (LED)
日用雑貨品	<ul style="list-style-type: none"> ● インテリア家具 ● 寝具 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高機能消耗品 (オーラルケア、サロンシャンプー等) ● ステンレスボトル
食品	<ul style="list-style-type: none"> ● 小麦製品 ● ビール ● 塩スイーツ (チョコ・バニラ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 機能性食品 (トクホ飲料、ヨーグルト等) ● 袋麺 ● ワイン
時計・ファッション用品	<ul style="list-style-type: none"> ● 輸入ブランド品 ● 香水 	<ul style="list-style-type: none"> ● ファンシー雑貨 (つけまつげ等) ● カバン
スポーツ・レジャー用品	<ul style="list-style-type: none"> ● ゴルフ用品 ● 球技スポーツ用品 	<ul style="list-style-type: none"> ● フィットネス用品 (ヨガマット、バランスボール等) ● サプリメント

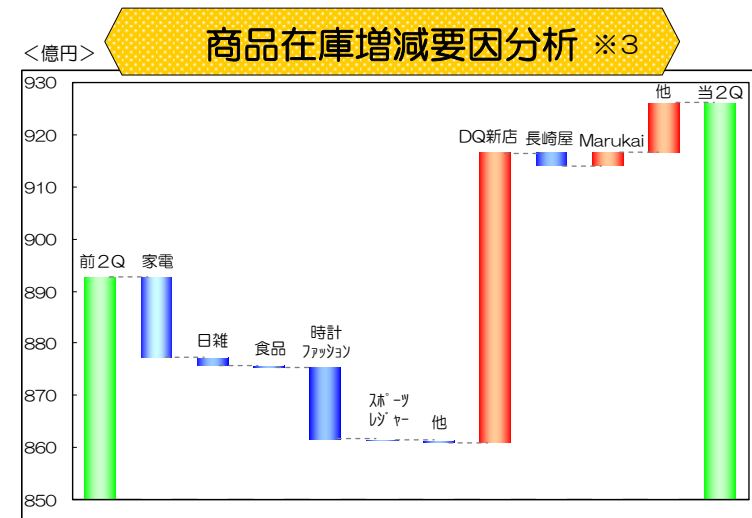
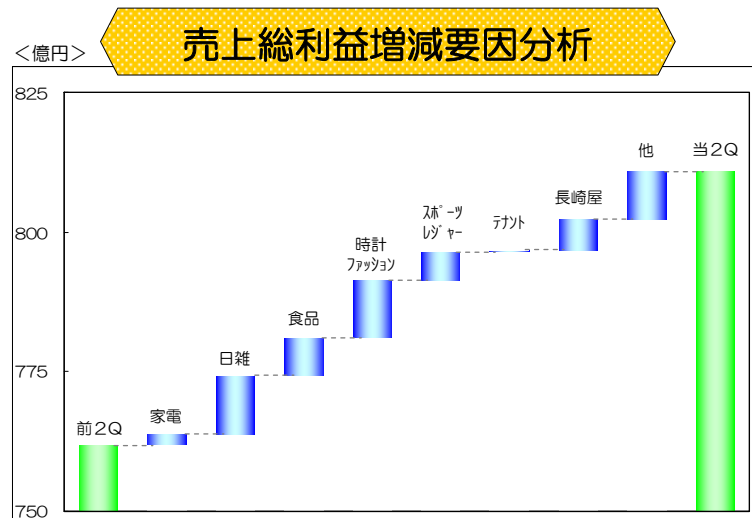
◆ 商品カテゴリー別粗利率増減の推移



2Q累計レビュー：収益構造分析



- ※1. DQ既存店・長崎屋とも粗利益を改善させ利益を積み増す
- ※2. 新店に係る諸費用及び組織再編に伴う一過性の費用が増加
- ※3. 高単価商品在庫を絞り込み、同時に滞留在庫を処分し削減



2Q連結業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【2013年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	156,808	100.0%	149,265	100.0%	105.1%
売上総利益	41,195	26.3%	39,176	26.2%	105.2%
販管費	30,831	19.7%	28,746	19.2%	107.3%
給与手当	10,592	6.8%	9,877	6.6%	107.2%
地代家賃	4,353	2.8%	4,303	2.9%	101.2%
支払手数料	4,214	2.7%	3,632	2.4%	116.0%
減価償却費	2,339	1.5%	2,461	1.6%	95.0%
その他	9,333	5.9%	8,473	5.7%	110.1%
営業利益	10,364	6.6%	10,430	7.0%	99.4%
経常利益	10,701	6.8%	10,710	7.2%	99.9%
当期純利益	6,608	4.2%	6,708	4.5%	98.5%
1株当たり純利益	84.61円		86.92円		97.3%

2Q事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【2013年10月1日～12月31日】

(単位：百万円)

	当2Q		前2Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業	151,223	96.4%	143,767	96.3%	105.2%
家電製品	15,279	9.7%	15,901	10.7%	96.1%
日用雑貨品	35,990	23.0%	33,256	22.3%	108.2%
食品	44,723	28.5%	41,430	27.8%	108.0%
時計・ファッション用品	36,649	23.4%	36,013	24.1%	101.8%
スポーツ・レジャー用品	7,982	5.1%	7,584	5.1%	105.3%
DIY用品	4,212	2.7%	4,112	2.7%	102.4%
海外	4,105	2.6%	3,201	2.1%	128.2%
その他商品	2,284	1.5%	2,270	1.5%	100.6%
テナント賃貸事業	4,262	2.7%	4,204	2.8%	101.4%
その他事業	1,323	0.8%	1,294	0.9%	102.3%
合計	156,808	100.0%	149,265	100.0%	105.1%

※報告セグメントについては、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

▶ 連結売上高：1,568億円（前期比5.1%増）

台風上陸などの天候不順と主力商品の低単価小型化が、それぞれお客さま来店数、売上高にマイナス影響を与えた。また、10月から3ヵ月間連続して、月前半＝高気温/月後半＝低気温と寒暖差に波があったことで、季節商品の販売が苦戦する場面もあった。

「食品」や「日用雑貨品」などのコモディティ商品は、顧客リピート率を安定させて推移。さらに生鮮食品に係るマンパワーが強化されて新規顧客も獲得。ホームパーティー用の酒類・菓子類の伸長が手伝って、ハロウィンやクリスマスのパーティーコースチュームなど趣味嗜好品の商品提案力も新規需要を呼び起こした。（ご参考：DQ既存店売上高0.4%減、粗利益高2.5%増）

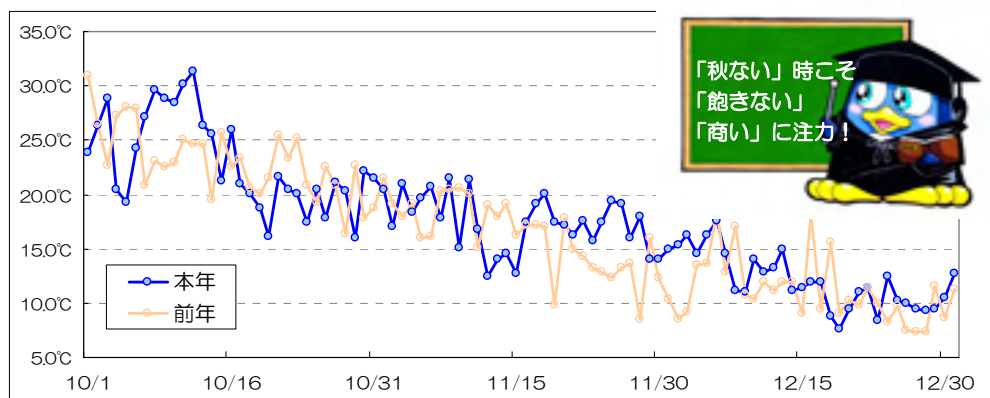
▶ 連結売上総利益：412億円（同5.2%増） ▶ 連結販管費：308億円（同7.3%増）

買い替え頻度の高い価格訴求品が好調な一方で、トレンドやお客さまニーズを先読みした高付加価値商品のアソーティングとプライベートブランド商品の順調な拡大が粗利率改善に貢献。

都市部の大型店出店が集中したこと（当2Q：11店 前2Q：6店）が費用増の一因となったものの、既存店ベースの販管費は2%減と見事なコストコントロールを継続。また、組織再編に伴う支払手数料などの一過性諸費用の発生（7.6億円）が営業利益の押し下げ要因となる。

▶ これらのことから、営業利益104億円（0.6%減）、経常利益107億円（0.1%減）、純利益66億円（1.5%減）となり、いずれも予想を大幅に上回る。

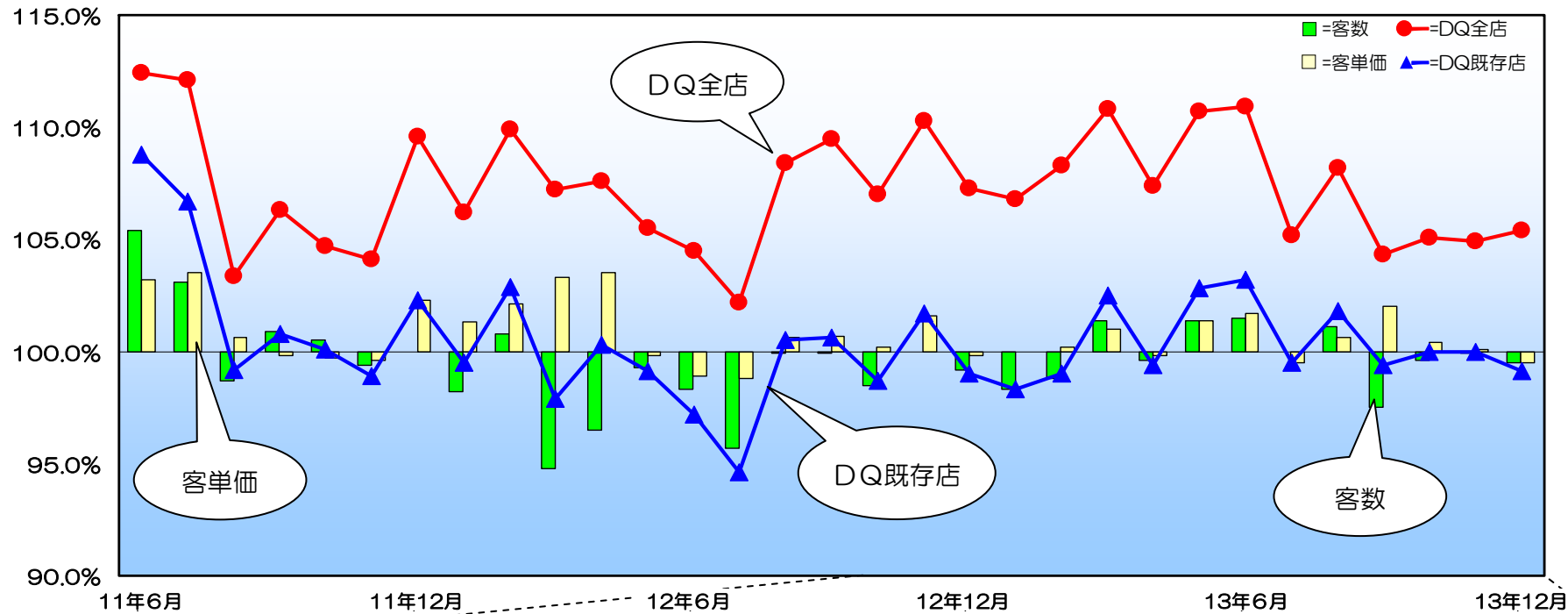
気温の推移



月別外部要因

	Positive!	Negative...
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィン効果 ・ケータイ新モデル発売 → スマホ関連需要を促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・天候不順(台風・ひょう等...) ・観測史上、最も遅い真夏日
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ボジョレーヌーボー解禁 → 酒類・スナック◎ ・土曜1日増 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年の冬物急伸が高いハードルとなる ・気温の変化少なく冬物スロー
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・気温平年並み ・年末休暇が長い曜日繰り ・クリスマス・年末商戦善戦 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年ゲーム売上の反動減 ・土曜1日減

DQ月次販売高の状況



既存店	12年10月	11月	12月	13年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
売上高	98.7%	101.7%	99.0%	98.3%	99.0%	102.5%	99.4%	102.8%	103.2%	99.5%	101.8%	99.4%	100.0%	100.0%	99.1%
・客数	98.5%	100.0%	99.2%	98.3%	98.8%	101.4%	99.6%	101.4%	101.5%	100.0%	101.1%	97.5%	99.6%	99.9%	99.5%
・客単価	100.2%	101.6%	99.8%	100.0%	100.2%	101.0%	99.8%	101.4%	101.7%	99.5%	100.6%	102.0%	100.4%	100.1%	99.5%
対象店舗数	167店	169店	172店	173店	173店	173店	177店	178店	179店	184店	185店	185店	186店	187店	189店

大增税後の競争激化時代を見据えて、商品の改廃を積極的に推し進める。
 DQ既存店伸長率は0.1%減（客数0.4%減、客単価0.3%増）となるが、
 交差主義比率を意識した販売促進策で売上総利益は2.5%増！

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2012年 6月期	2013年 6月期	2014年6月期	
			1Q	2Q
ドン・キホーテ ^{※1}	157	165	165	172
ピカソ ^{※2}	14	14	14	15
M E G A ^{※3}	40	39	40	41
New M E G A	9	17	17	21
海外(アメリカ)	3	3	14	14
ドイト	14	13	13	12
長崎屋	5	4	3	3

法人別店舗数

ドン・キホーテ	185	200	200	212
長崎屋	40	39	39	40
ドイト	14	13	13	12
国内合計	239	252	252	264
D Q U S A	3	3	3	3
Marukai	-	-	11 ^{※4}	11
海外合計	3	3	14	14
合計	242	255	266	278

※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれておりますが、うち1店は休業中であります。

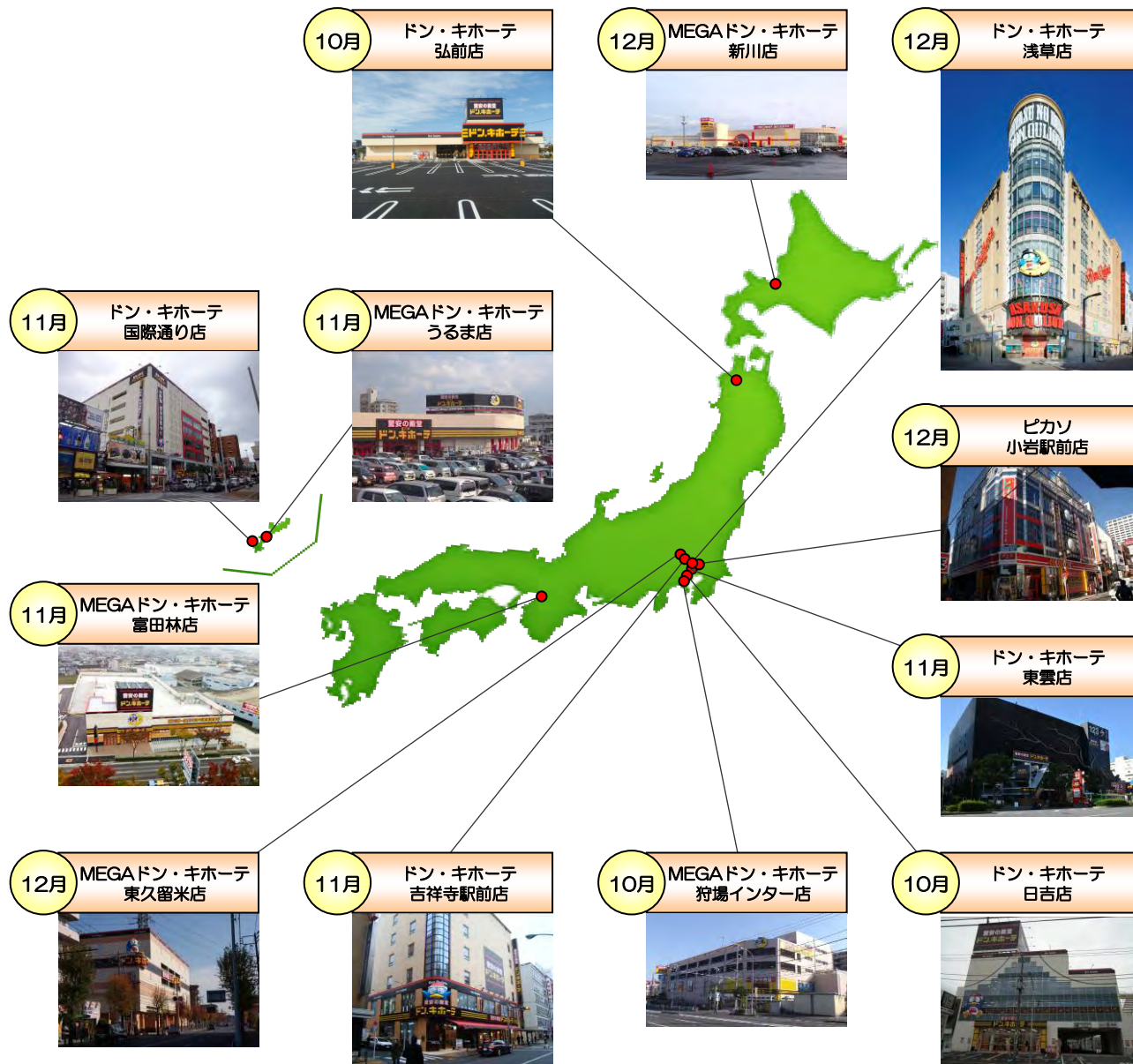
※2. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」及び「驚安堂」が含まれております。

※3. ㈱長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。

※4. Marukaiが、当1Qから連結されております。

※5. 当2Qに、経営主体を「ドイト」から「ドン・キホーテ」に1店変更しております。

※6. 上記の他に、1店(DQ)を閉鎖しております。



当期ハイライト

新規出店のテーマは「首都圏一等地戦略」。
 既存店は競争力及び収益力を高めながら顧客囲い込み作戦を推進。
 通期の新規出店は20店+αを予定し、M&AによりMarukaiを連結子会社化。

	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q
D Q	※丸亀	日吉 弘前 狩場 インター	東雲 吉祥寺 駅前 ※国際通り うるま 富田林	東久留米 小岩駅前 浅草
長崎屋	武蔵小金井 駅前 〈業態転換〉		札幌新川 〈新規出店〉	
ドイト		入間		
Marukai		ハワイ2店舗・ カリフォルニア 9店舗を取得		

- 海外事業
持株会社の設立
- 分割準備会社
の設立
- マルカイを
連結子会社化
- JAMと固定資産
のセル&リース
バック契約締結
- 純粋持株会社
体制に移行
- 長崎屋法人初の
MEGA新店

組織再編：会社分割と決算状況

ドン・キホーテ HLDGS

12月2日

ドン・キホーテ

ドンキホーテホールディングス（純粋持株会社）

（分割準備会社）

ドン・キホーテ（リテール事業会社）

（単位：百万円、%）

連結		1Q			2Q			2Q累計			前2Q累計		
		実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比
	売上高	146,514	100.0	104.4	156,808	100.0	105.1	303,322	100.0	104.7	289,644	100.0	104.6
	売上総利益	39,880	27.2	107.8	41,196	26.3	105.2	81,075	26.7	106.4	76,186	26.3	106.1
	販管費	29,740	20.3	103.4	30,831	19.7	107.3	60,571	20.0	105.3	57,513	19.9	105.3
	営業利益	10,140	6.9	123.0	10,364	6.6	99.4	20,504	6.7	109.8	18,673	6.4	108.5
	経常利益	10,433	7.1	124.7	10,701	6.8	99.9	21,135	7.0	110.8	19,075	6.6	116.0
	当期純利益	6,416	4.4	126.6	6,608	4.2	98.5	13,024	4.3	110.6	11,777	4.1	98.7

ドンキホーテ HD (7532)		1Q			2Q			2Q累計			前2Q累計		
		実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比
	売上高	101,617	100.0	104.9	66,429	100.0	63.3	168,045	100.0	83.3	201,796	100.0	106.2
	売上総利益	27,580	27.1	108.8	17,285	26.0	63.6	44,866	26.7	85.4	52,508	26.0	109.4
	販管費	20,172	19.8	104.2	14,466	21.8	74.4	34,638	20.6	89.3	38,806	19.2	109.8
	営業利益	7,408	7.3	123.6	2,819	4.2	36.6	10,228	6.1	74.6	13,702	6.8	108.1
	経常利益	10,001	9.8	167.0	3,276	4.9	41.3	13,277	7.9	95.3	13,930	6.9	117.7

ドン・キホーテ		1Q			2Q			2Q累計			前2Q累計		
		実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比
	売上高	0	-	-	43,598	100.0	-	43,598	100.0	-	201,796	100.0	106.2
	売上総利益	0	-	-	NA	-	-	NA	-	-	52,508	26.0	109.4
	販管費	0	-	-	NA	-	-	NA	-	-	38,806	19.2	109.8
	営業利益	0	-	-	3,912	9.0	-	3,912	9.0	-	13,702	6.8	108.1
	経常利益	0	-	-	NA	-	-	NA	-	-	13,930	6.9	117.7

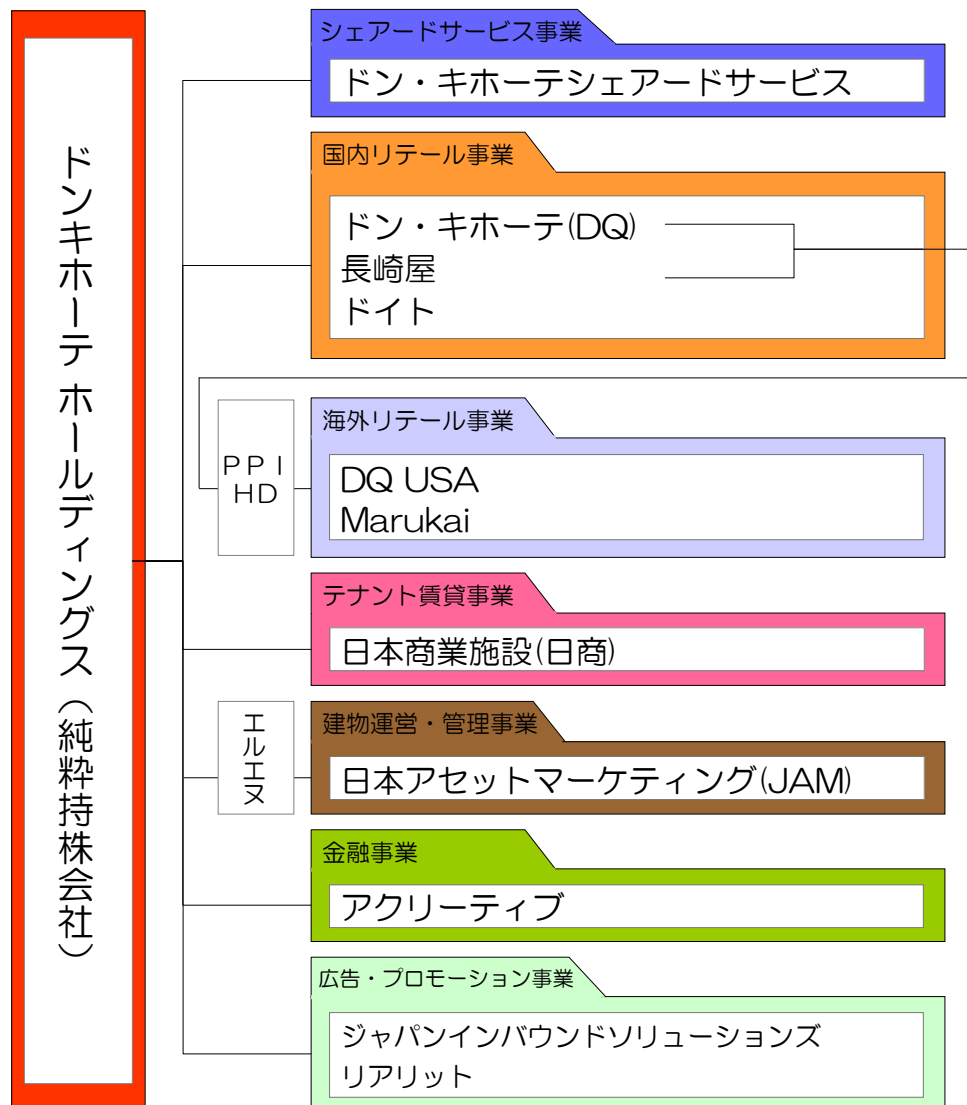
ドンキホーテ HD + ドン・キホーテ		1Q			2Q			2Q累計			前2Q累計		
		実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比	実績	百分比	前期比
	売上高	101,617	100.0	104.9	110,027	100.0	104.9	211,643	100.0	104.9	201,796	100.0	106.2
	売上総利益	27,580	27.1	108.8	NA	-	-	NA	-	-	52,508	26.0	109.4
	販管費	20,172	19.8	104.2	NA	-	-	NA	-	-	38,806	19.2	109.8
	営業利益	7,408	7.3	123.6	6,731	6.1	87.3	14,139	6.7	103.2	13,702	6.8	108.1
	経常利益	10,001	9.8	167.0	NA	-	-	NA	-	-	13,930	6.9	117.7

※ DQHD及びDQの実績を単純合計したものであります。

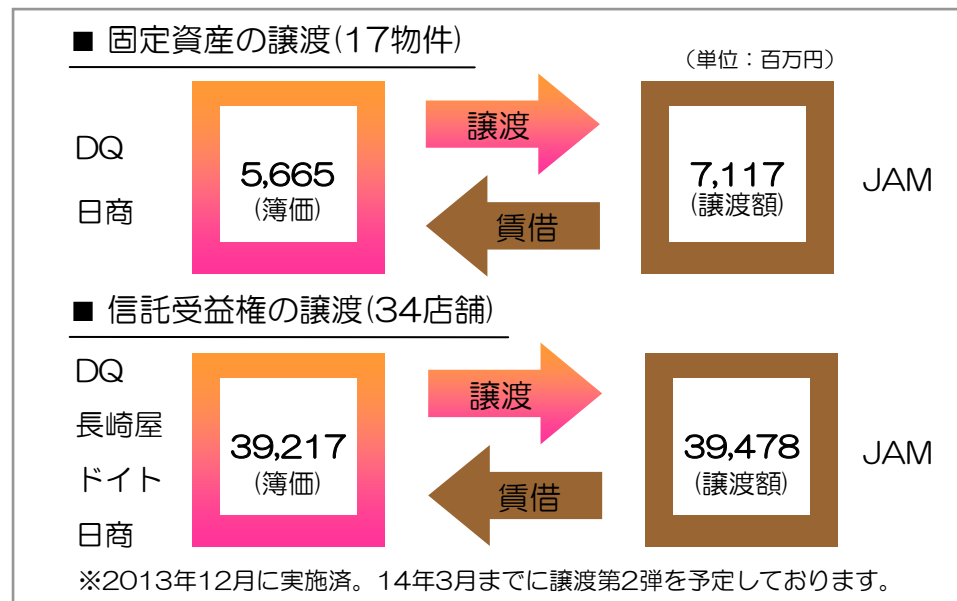
組織再編：不動産の効率的活用と管理強化

ドンキホーテ HLDGS

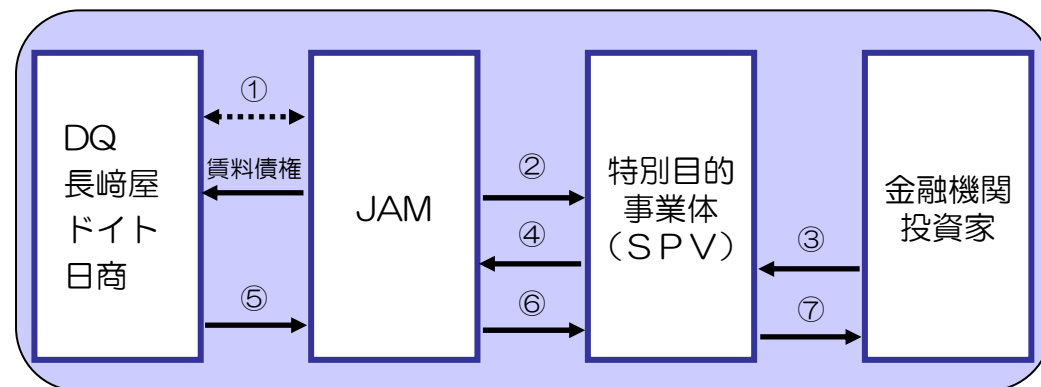
◆ ドンキホーテホールディングス組織体制



◆ 不動産の効率活用及び管理



◆ 賃料債権流動化と資金調達



①建物賃貸借契約 ②賃料債権信託譲渡 ③ABL ④譲渡代金 ⑤賃料支払 ⑥回収金(立替払) ⑦ABL返済

※当該スキームによる資金調達額は、B/S上「債権流動化に伴う支払債務」として計上されます。

2Q累計レビュー：MEGA店の収益構造

ドン・キホーテ HLDGS

コモディティ商品を中心に、地域密着戦略で収益拡大！

MEGAドン・キホーテ 既存37店舗

NEW MEGAドン・キホーテ 既存17店舗

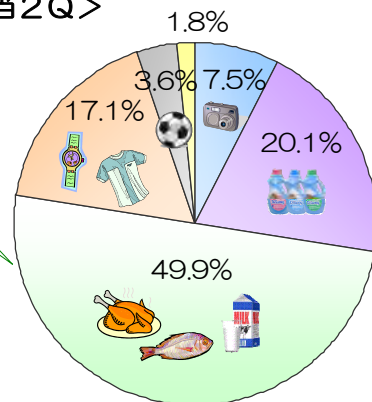
	当2Q	前2Q
売上高	100.0%	100.0%
商品粗利益率	23.2%	22.9%
販管費率	18.1%	18.3%
人件費率	7.0%	7.0%
償却費率	1.4%	1.6%
その他	9.7%	9.7%
営業利益率	5.1%	4.6%

収益構造

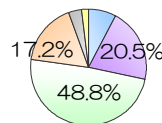
	当2Q	前2Q
売上高	100.0%	100.0%
商品粗利益率	24.4%	22.8%
販管費率	15.9%	17.2%
人件費率	5.8%	6.3%
償却費率	2.2%	2.8%
その他	7.9%	8.1%
営業利益率	8.5%	5.6%

<当2Q>

食品
拡大



<前2Q>

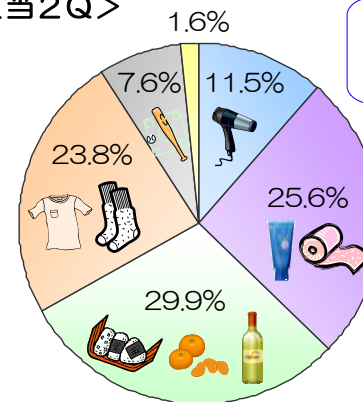


商品構成

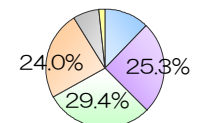
- 家電製品
- 日用雑貨品
- 食品
- 時計・ファッション用品
- スポーツ・レジャー用品
- その他

<当2Q>

高粗利商品
拡大



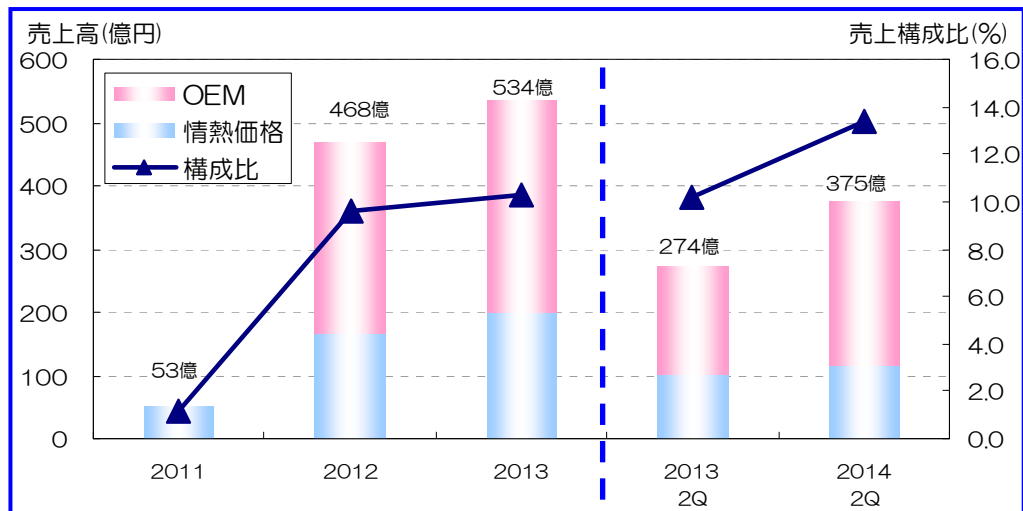
<前2Q>



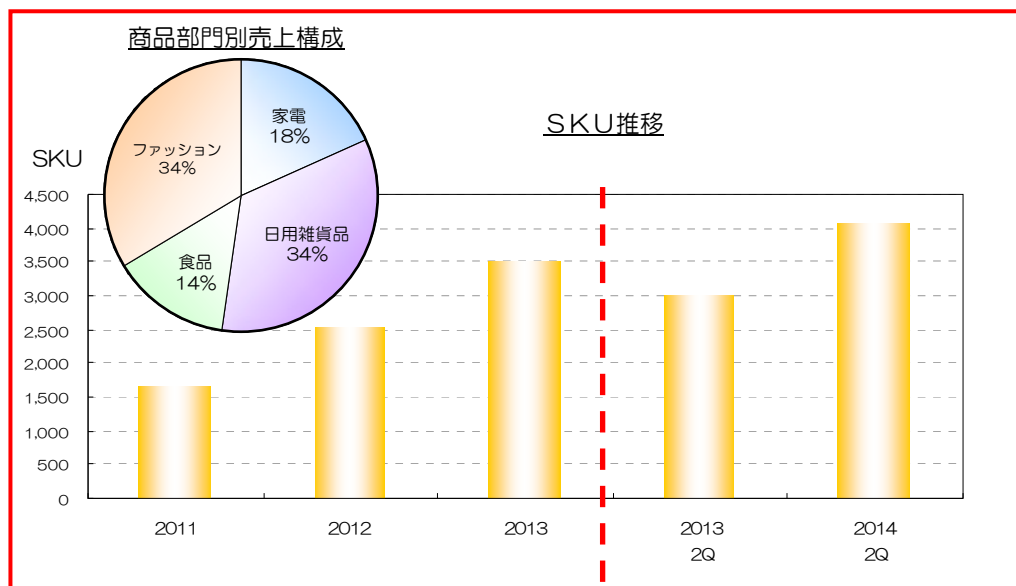
情熱価格 Information

ドン・キホーテ HLDGS

◆ プライベートブランド商品 実績推移 (2011年7月~2013年12月)



◆ プライベートブランド商品 商品部門別売上構成比とSKU推移



※SKUデータはPB「情熱価格」のみの実績となり、OEM商品の実績は含まれておりません。

イチ押し!メーカーコラボレーション!

カルビー人気ポテトチップスと、かっぱえびせんのドン・キホーテオリジナル味を発売(2014年1月)! ※限定品



ジェネリック家電が人気!

ジェネリック家電とは大手メーカー商品よりも性能は限定されるものの価格は低く抑えられた家電製品のことです。シンプルで使いやすいPB家電に注目が集まっています。



目指せホームラン! ヒット商品をご紹介します!

フチサイズと合わせて
総販売台数21,000台!

アロマディフューザー
「ニジロアロマ」

レット御礼、総販売台数
62,000台突破!

アロマ対応加湿器
「レインボーテュー」

総販売数2,300,000個!

フィッシュソーセージ

総販売台数
170,000本!

高浸透保湿
ヒアルロン酸
化粧水

総販売台数
150,000個のヒット商品!

内ももシェイパー

「驚安の殿堂」を実現する充実のラインナップ!

トイレ/お風呂/食器用洗剤

万能コンパクトクッカー

切り餅 1kg

粉チーズ

キャリーケース&
対応ビジネスバッグ

たっぷりたまごの
半熟カステラ

ハンディブローワ
& クリーナー

電気しき毛布

遠赤裏起毛
レディースインナー

マイコンロ&ポンベ

フミダイス

ラチェスト
ワイドストッカー

中長期の重点戦略と当期の施策

ドンキホーテ HLDGS

—中長期重点戦略—

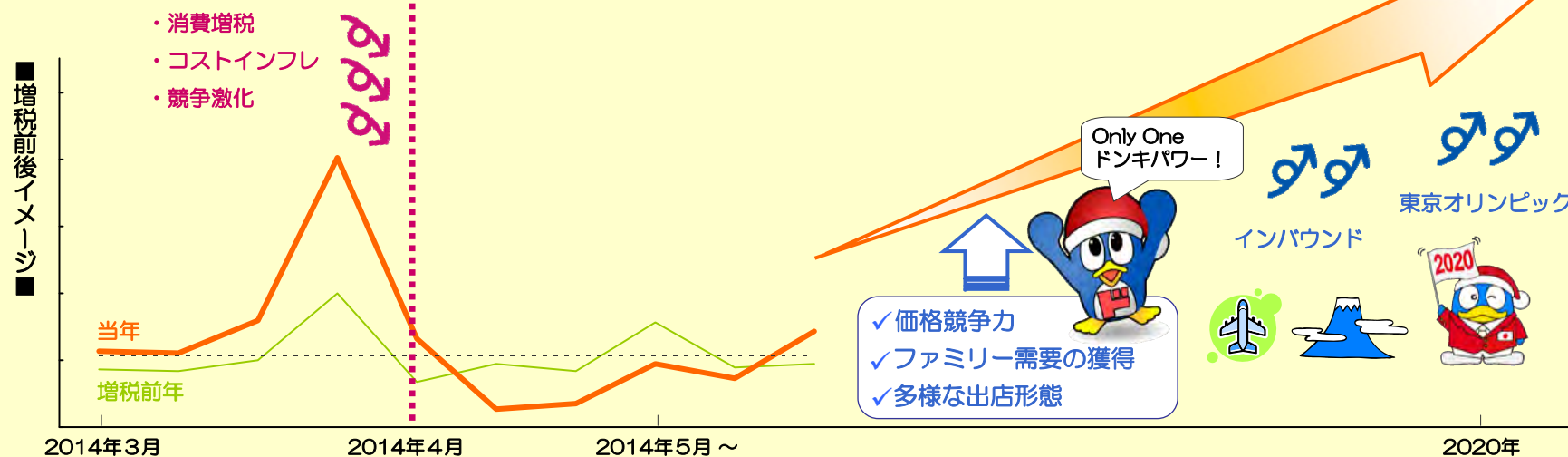
1. 30期連続増収増益を目指す
2. PB強化による利益率アップ
3. ソリューション出店という新たな店舗開発

2012年8月発信

—2014年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. グループ：組織・事業再編を通じて、経営構造の変革に柔軟に対応
2. 営業方針：消費税増税を見据えた変化対応力の発揮
商圏内競争力を高めて、ブランド力の底上げを図る
お客さまニーズにお応えする商品編集とサービスレベルの向上
3. 商品戦略：消費マインドの変化に適應する商品ポートフォリオの改廃と進化
生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進
付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
4. 店舗戦略：設備投資額350億円（Marukai取得費・予備費を含む）
新規出店20店+α、都市型店の開発強化、首都圏一等地戦略推進
DQ既存店の予想：下期=0.0%、通期=±0.0%
5. 財務戦略：資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善
デット調達を有効活用。エクイティファイナンスの予定なし
年間配当金予想=33円00銭（中間配当予想：10円00銭）



通期の連結業績予想

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	通期修正予想			当初予想		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	596,300	100.0%	104.9%	596,300	100.0%	568,377	100.0%
売上総利益	158,700	26.6%	105.9%	158,000	26.5%	149,807	26.4%
販管費	124,500	20.9%	106.0%	124,500	20.9%	117,437	20.7%
営業利益	34,200	5.7%	105.7%	33,500	5.6%	32,369	5.7%
経常利益	34,800	5.8%	104.8%	34,000	5.7%	33,201	5.8%
当期純利益	21,800	3.7%	103.1%	21,500	3.6%	21,141	3.7%
1株当たり純利益	278.80円	—	101.9%	276.13円	—	273.47円	—
設備投資額	35,000	—	117.0%	35,000	—	29,914	—
減価償却費	9,800	1.6%	97.7%	10,500	1.8%	10,028	1.8%

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
引き続き増収増益決算を目指します。

上場子会社決算業績概況

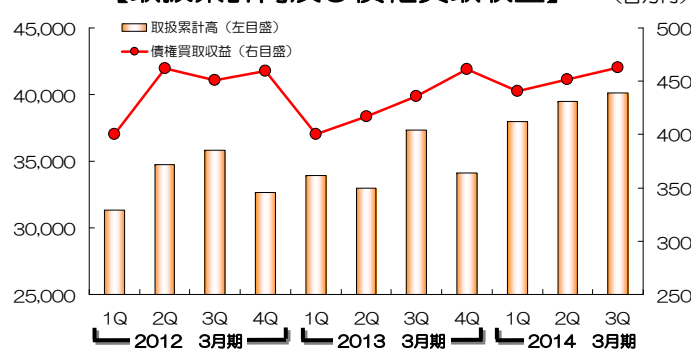
ドン・キホーテ HLDGS

＜アクリーティブ：8423＞

(単位：百万円)

【PL概況】	当3Q (13年4月1日～12月31日)			前3Q (12年4月1日～12月31日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
取扱累計高	117,602	—	112.8%	104,219	—
営業収益	2,190	100.0%	104.7%	2,091	100.0%
債権買取収益	1,355	61.9%	108.2%	1,253	59.9%
業務受託収益	752	34.3%	107.5%	699	33.5%
その他収益	83	3.8%	59.3%	139	6.6%
金融費用	156	7.1%	68.4%	227	10.9%
販売管理費	1,115	50.9%	91.4%	1,220	58.3%
営業利益	919	42.0%	142.9%	643	30.8%
経常利益	955	43.6%	130.9%	729	34.9%
当期純利益	922	42.1%	148.6%	620	29.7%

【取扱累計高及び債権買取収益】



【BS概況】	当3Q末		前期末
	金額	増減	金額
総資産	20,152	▲238	20,390
負債	16,441	▲1,125	17,566
純資産	3,711	887	2,824

＜日本アセットマーケティング：8922＞

(単位：百万円)

【PL概況】	当2Q (13年4月1日～9月30日)			前2Q (12年4月1日～9月30日)	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	78	100.0%	127.9%	61	100.0%
売上総利益	▲15	▲19.2%	—%	▲37	▲60.7%
販売管理費	263	337.2	163.4%	161	263.9%
営業利益	▲278	▲356.4	—%	▲198	▲324.6%
経常利益	▲287	▲367.9	—%	▲229	▲375.4%
当期純利益	▲287	▲367.9	—%	▲4	▲6.6%

(注) JAMIは2Q決算を表示しております。同社の3Q決算発表は2月13日を予定しております。

【売上高及び営業利益】



【BS概況】	当2Q末		前期末
	金額	増減	金額
総資産	1,709	1,396	313
負債	85	▲24	109
純資産	1,623	1,419	204

本日はありがとうございました。

ドンキホーテ HLDGS

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第34期（2014年6月期）第3四半期決算発表（予定）

決算発表日：2014年5月7日（水）

説明会会場：野村コンファレンスプラザ日本橋（東京都中央区日本橋室町2丁目4番3号 日本橋室町野村ビル6F）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

ドン.キホーテ HLDGS